



# 上京

## 史蹟と文化

2017 VOL. 53

# 美を創る

利休に始まる千家の茶の湯。三世宗旦むねたんの次男一翁宗守いちおんむねもり（一六〇五〜七六）が開いた武者小路千家。今日までの道統どうとうを伝えるだけでなく、その時代の人々が茶の湯に何を期待しておられるのかをよく看取して調和させ、茶の湯の伝授、普及に努めて来た」と振り返られる、当代の第十四世家元千宗守さんにお話を伺いました。

当代は一九四五（昭和二十）年七月生まれ。第十三世有隣齋うりんさい（一九二三〜九九）と、料理研究家として知られた千澄子さん（一九二〇〜二〇〇四）との間に長男として生まれた。敗戦から間もなかった幼少期は、世相が混とんとしており、茶の湯をたしなむ余裕がある人はそれほど多くなかった。そんな頃から、いずれ家元を継ぐ自覚はあったのだろうか。

「家元制度の一つのメリットとどうか機能は、上手に周りから育てていくシステムになっていることですね。ある日突然宣告して、『お前は後継ぎや、しっかりやらんとあかん』と云うのではなく、いわゆる職住一致の環境の中で、親や周りの人間から『あなたはこういう家に生まれたのだから、将来はこうなる』と



武者小路千家 第十四世家元  
公益財団法人官休庵 理事長

千 宗 守

上京区武者小路通小川東入

期待を掛けられ、「洗脳教育」をされるわけです。だから自ずとその世界に入っていく。家元制度、職住一致の世界のメリットでしょうね」

武者小路千家も他の伝統芸術と同じように女性も裏方に徹して、日常は稽古場に入ることもない。家元を継ぐ男子に恵まれないければ、祖父の第十二世愈好齋ゆこうさい（一八八九〜一九五三）や父の有隣齋がそうであったように、表千家など他家から養子を迎えてきた。表・裏両千家に比べて「茨の道」の時代もあつたという。当代と子息と、男子誕生が二代続いたのは何百年ぶりかのことだそつだ。

「私は先代である父からではなく、祖父の弟子たち―これは父にとつても先輩に当たるのですが―から点前てまえや作法を学び、いろいろの知識を吸収しました」「学業を終え京都に戻つてから家元のルーティンはほとんど私がやりました。父は三高から京大ですつと国史を勉強しており知識は凄すごいのですが、世間のこととは何も知らなくて疎といし、する気もない。家元はある意味では会社組織ですから、経営しなければならぬことがいくらで



本年の家元初釜にて、山田啓二京都府知事ご夫妻、伊吹文明衆議院議員に茶を呈する 写真 宮村政徳氏

もある。朝から晩までお茶を点<sup>た</sup>てていけば良いわけではないのに、全く関心がなかった」

ただひたすらに茶の湯を守る先代を「反面教師」に、当代は一九七四（昭和四十九）年に武者小路千家の後嗣<sup>こうし</sup>号である宗屋<sup>そうおく</sup>を襲名<sup>しゅうめい</sup>、一九八九（平成元）年父の病氣<sup>りき</sup>療養<sup>りょうやう</sup>による隠居<sup>いんきょ</sup>に伴い、宗守を襲名、家元を継承した。この間、欧米各大学などが招聘<sup>しょうへい</sup>を受けて講演や茶会を行ない、政府派遣の文化使節として中国へも赴<sup>おもむ</sup>いた。

一九九四（平成六）年三月、ローマ法王庁で教皇ヨハネ・パウロⅡ世に単独特別謁見<sup>えつけん</sup>して茶の湯を説明<sup>せつめい</sup>、教皇名代<sup>みよしろだい</sup>の枢機卿<sup>きききやう</sup>などに呈茶<sup>ていちゃ</sup>した経験を持つ。

「やはり存在を知らしめる必要があります。黙<sup>もく</sup>つていて人が知<sup>し</sup>ってくれるわけではありません。お声が掛<sup>か</sup>ければ出来る限りこまめに顔を出します」「愈好齋は

東大で国史学を学び、卒業後に武者小路千家を再興<sup>さいこう</sup>しました。有隣齋も学者と、二代続いてインテリ階級<sup>かいけい</sup>だった。一般から『武者小路はちよつとお高く留<sup>とど</sup>まっている』と見られたのではないかと「社中の皆が誇<sup>ほ</sup>りを持って活動出来る地盤を作るのが家元だと思<sup>おも</sup>っています。この流儀を世間に知らしめる啓蒙<sup>けいもう</sup>・広報<sup>くわん</sup>が大事ではないか。それが欠<sup>か</sup>けていたことを意識して、私もいろいろやって来<sup>き</sup>ました」「アメリカが一番受け入れる許容度<sup>きようど</sup>が大きい国ですね。ヨーロッパは自分の国の文化と比較して見るから、ちよつと頑<sup>かた</sup>なですな。アメリカは自分たちの文化以外にひよつとしたら可能性<sup>か</sup>があるのではとの見方をします」

何百年の歴史を持つ茶道だが、これからの見通し、展望はどうなのか。

「花嫁修業<sup>けんとく</sup>としてはなくなるかも知れない。一方、好きで入<sup>い</sup>て来る人は多くなっています。今の若い人たちは余<sup>あま</sup>りにも家庭生活に日本的なものがない。そうすると逆に茶室はエキゾチックな感じ、外国文化のようになつても古い日本文化に触<sup>ふ</sup>れに入<sup>い</sup>って来る人が多いですね。これまでなら考えられないことですが、そつした人たちの中から何人かは本質<sup>ほんしつ</sup>を理解<sup>りかい</sup>してくれまうから、それが維持<sup>維持</sup>に繋が<sup>つ</sup>っていくわけです。その気持ちを大事にしたいです」

「和敬清寂<sup>わけいせいじやく</sup>」を心に刻み、「伝統とは革新の集積である」の信念<sup>しんねん</sup>を持って歩<sup>あ</sup>んでこられた当<sup>た</sup>代。「私はもう七十三歳、今の状態<sup>じょうたい</sup>で次代に譲<sup>ゆづ</sup>りたい」。長男で後嗣<sup>ごし</sup>の随縁齋<sup>ずいえんさい</sup>宗屋<sup>そうおく</sup>若宗匠<sup>わかにしやう</sup>（一九七五〜）にどのよう<sup>よう</sup>に継承<sup>けいせう</sup>されるのか、気<sup>き</sup>になるところです。

# ぶらり 上京

その三

## 応仁の乱 ・東陣

戦国時代の幕開けとなった応仁の乱。今年には五五〇年の節目の年です。近年、この戦乱を取り上げた書籍が次々と刊行され、応仁の乱への関心が高まっています。勃発当初は現在のの上京区が戦乱の中心地でした。

応仁の乱は、室町幕府の有力大



御霊神社

名であった畠山氏・斯波氏の家督相継争いや八代將軍足利義政の後継者争いなどが絡んで起こった大乱です。細川勝元を中心とする東軍と山名宗全を中心とする西軍が戦いを繰り広げました。西軍側の陣は、「西陣」の地域名を現在に伝えていますが、東軍側の陣、いわば「東陣」は名称が残っていません。今回は「東陣」地域の史蹟をご案内しましょう。

文正二年（応仁元年）正月一日、応仁の乱の発端は、御霊神社（上御霊社）に陣を構えた畠山政長（東軍）を畠山義就（西軍）が攻撃した御霊林の戦いにより開かれました。結果は畠山義就の勝利となり畠山政長は敗走します。御霊神社の西鳥居の傍らには「応仁

の乱勃発地」の石碑が建てられています。

足利義政の調停もあり、直ちに戦乱は拡大しませんでした。政治的な優位に立つため東軍・西軍それぞれの軍勢が京都に集結したことから緊張が高まりました。西軍の中心となった山名宗全の邸宅は、堀川上立売交差点南西側に推定されており、現在も山名町の地名が残っています。一方、東軍の中心となった細川勝元邸については複数の推定地がありますが、応仁の乱後の京都の景観を写した『洛中洛外図屏風』では、上立売通北側・小川通東側に細川氏の邸宅「細川殿」が大きく描かれています。建物が軒を連ね、池や庭石を配した庭園のようすから往時の細川勝元邸の姿をうかがうことができます。今年五月には小川児童公園内の細川殿跡を臨む位置に史蹟を顕彰する説明板が設置されました。



細川邸の説明板（小川児童公園内）



上杉本洛中洛外図屏風（米沢市蔵）に見える細川邸

応仁元年五月、ついに両軍は衝突します。勢力に勝る東軍は山名宗全邸を包囲する形で攻撃を仕掛けますが、西軍もよく防ぎ、決着がつかないまま両軍とも兵を引きました。中でも一条戻橋や百々橋で激しい戦いが行われたことが記録されています。百々橋跡の寺之内小川交差点では説明板や江戸時代に架け替えられた百々橋の礎石を見ることができます。

さて、乱の最中、細川勝元は居所を將軍邸である室町殿に移した



「花の御所」発掘調査の様子

ことから、ここが実質的な東軍の拠点となりました。室町殿は三代將軍足利義満が造営した邸宅で「花の御所」とも呼ばれました。東を烏丸通、北を上立売通、西を室町通に囲まれた大邸宅で、室町殿の名称は正門が室町通にあつたことに由来します。発掘調査では今出川通の一筋北側の東西道路に面した位置で、室町殿南側を区画する堀や庭園の築山・庭石が見つかりました。堀は幅約三・四メートル、深さ約一・五メートルの規模があります。庭石は長辺二メートル近くもある大振りな石材で、木々が茂り、草花が咲き誇る「花の御所」の名に相応しい庭園であつたことが想像できます。また、室町殿北東部の同志社大学寒梅館では、石を積み上げた遺構や出土遺物を見ることが出来ます。

応仁元年十月、今度は西国の大名・大内政弘の増援を得た西軍が攻勢に出ます。ただし、足利義政や内裏から避難してきた天皇・上



相国寺

皇がいる室町殿を直接攻撃することができないため、東に隣接する相国寺の占有をめぐって大激戦となりました。相国寺の戦いです。相国寺は足利義満が建立した京都最大級の禅宗寺院で、当時は現在よりも格段に広い寺域に伽藍や塔頭が建ち並んでいました。この広い境内で両軍は激突し、あおりを受けて境内東端にあつた七重大塔を残して伽藍のすべてが焼失してしまいます。同志社大学今出川キャンパスの発掘調査では、焼け

## ブライツホール

北ブライツホール	[堀川紫明]
中央ブライツホール	[五条東山]
南ブライツホール	[油小路八条]
西ブライツホール	[五条西大路]
山科ブライツホール	[五条外環]
烏丸ブライツホール	[烏丸高辻]
向島宇治ブライツホール	[宇治檜島]
大津ブライツホール	[大津駅南]

お葬式 家族葬

**公益社**

本社 / 京都市中京区烏丸通六角上ル

☎ 0120-004-200 公益社 京都 🔍 検索

て変色した多数の屋根瓦が出土しており、火災の激しさを物語っています。戦いの結果は、双方とも甚大な被害を出したにもかかわらず痛み分けとなりました。この後、上京での大規模な合戦は行われなくなり、両軍は堀川や小川を挟んで構と呼ばれる堀や土塁で囲まれた陣地を構築して対峙するとともに、それぞれの本拠地を攻撃する後方かく乱へと戦法を変えたことから、戦乱は泥沼化して決着がつかないまま十一年間も続くこととなります。

このように「東陣」地域には、

室町幕府に関わる中心的施設が集まっており、さらに公家の邸宅も営まれていました。現在の同志社大学新町キャンパスは撰閑家・近衛家の邸宅に当たっています。近衛邸は応仁の乱で焼失してしまいましたが、同じ位置に再建され『洛中洛外図屏風』からそのようすをうかがうことができます。特に庭園にあった糸桜（枝垂桜）は名木として知られており、今でも春になると子孫の桜が見事な花を開いています。

応仁の乱は、上京に大きな被害を与えました。しかし、迅速に復興が進んだことも確かなことで、決して焼け野原になつてしまったわけではありません。上京区役所の二階ロビーには、応仁の乱後に復興した上京のようすを描いた『上杉本洛中洛外図屏風』の複製パ



同志社大学新町キャンパス

興が進んだことも確かなことで、決して焼け野原になつてしまったわけではありません。上京区役所の二階ロビーには、応仁の乱後に復興した上京のようすを描いた『上杉本洛中洛外図屏風』の複製パ



上杉本洛中洛外図屏風（米沢市蔵）複製パネル

ネルが展示されています。また、「東陣プロジェクト」として、戦国時代の上京を顕彰する活動が続けられています。複製パネルや説明板・石碑をとおして現代の景観の中に応仁の乱の激戦の跡、そして、力強く復興した上京の姿を偲んでいただければ幸いです。

（公益財団法人京都市埋蔵

文化財研究所 山本雅和）



西京白味噌。

本味噌本店

京都市上区西京町一丁目五五八

http://www.honda-miso.co.jp



香木・薫香・匂香

山田松香木店

〒602-8014  
京都市上区御所小路町164  
(堂町通下立売上ル)

TEL 075 4414694  
TEL 075 4414694  
FAX 075 441124

# 「五山の送り火」と

## お精霊さん

京都産業大学 日本文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

奈良市や四万十市など、全国各地に大文字などの「送り火」の風習は残っていますが、「五山」の規模で「送り火」が守り伝えられているのは京都だけです。「大文字」の起源ですが、一番古い説では、平安時代の初め、弘法大師空海が考えたとする説。次に、足利義政が亡き息子のために相国寺の横川景三に命じて点したという説。また江戸時代初期に刊行された本に「大文字」に関する記述が見られることから、江戸時代初めの寛永年間に近衛信尹が「大」の字を書いたとも伝わります。少なくとも約四百年前には、都の人達には無くてはならない存在であった

たということが判ります。

弘法大師説では、東山の浄土寺が炎上した際に、空海が鎮火を祈ると、阿弥陀如来が光明を放ちながら火を消し止めたので、後にその感謝と記憶の意味で「大」の字を翌年から点すようになったと言われています。今も大文字山の金尾（第一画・第二画・第三画が交わる）には弘法大師堂が建ち、普段は麓の浄土院で安置されている「弘法大師像」が送り火の日のみ動座され、保存会の皆さんが一同で点火前にお参りをされ、送り火の無事を祈ります。

室町幕府第八代將軍足利義政は、日野富子との間に生まれた第九代將軍義尚を若くして亡くしました。応仁の乱で壊滅の危機に瀕した都の復興がやつとこれからという時に、息子であった若き將軍が近江の陣中で没したのです。その鎮魂のために足利家の菩提寺、相国寺の横川景三に命じて、息子の菩提を弔ったという話です。なるほど、大の字が真西ではなく、少し斜めに北を向いているのも相国寺のすぐ隣にあった幕府の室町御所（花の御所）に相對しているとも見えますね。

江戸時代発祥説の拠り所は、中川喜雲の著わした「案内者」（寛文二年発刊）の中で、「大文字は三藐院殿（近衛信尹）の筆画にて、きり石をたてたりといふ。」とあることから、三藐院と号した近衛家の当主近衛信尹がはじめたと記されています。また同書の中で、「松ヶ崎には妙法の2字を火にともす。山に妙法といふ筆画に杭をうち、松



松ヶ崎「妙」



松ヶ崎「法」

明を結びつけて火をともしたるものなり。北山には帆かけ船、浄土寺には大文字皆かくの如し」とあるので、東山の「法」と共に「妙法」・「船形」も、少なくとも江戸時代には存在していたとみてよいでしょう。

「妙法」の地元、松ヶ崎では、日像上人（一二六九—一三二二）が、涌泉寺を天台宗の寺院から法華宗の寺院に改宗したことを民たちが喜び、「妙法蓮華経」の「妙」を点したと伝わります。これが西山の「妙」の起源とされ、

東山の「法」はそれから三百年程の後、日良上人（一五九〇—一六六〇）が点したと伝わります。これについては興味深い話があり、もし「妙」と「法」が同時期に灯されていたとしたならば、「妙」と「法」の東西の位置が逆転している筈であるということ。昔は横書きの時に、右から左へと書く習慣があったため、左から右へと並んでいるのは、発祥の時期を異にする証



西賀茂「船形」

拠だといわれています。西賀茂の「船形」は、管理をする西方寺の伝えによると、慈覚大師円仁が入唐して、日本に戻る折に、船諸ともに難破しそうになりましたが、一心に仏に祈ると暴風雨が止んだという故事に基づいたとされます。また精霊船として、亡き人の魂を冥界へ送り届ける船に見立てたのだという説もあります。



奥嵯峨「鳥居形」

左大文字の起源ははっきりとはしていませんが、こんなエピソードがあります。東山の「大文字」が御所（室町幕府）の池の水面に映り、反射したものが左大文字なのだ。文化が花開いた室町時代を髣髴とさせてくれるような浪漫溢れるお話です。

「鳥居形」の送り火にも弘法大師説がありますが、やはりその形から神社への献灯の意味合いが強

お客様の笑顔が、私たちの喜びです。

京都の住まい探しはお任せください。

株式会社 **フラットエージェンシー**

 賃貸住宅	 不動産売買	 資産活用	 管理
 テナント	 マンスリー	 建築・リフォーム	 TAMARIBA

京都府知事免許 (8) 第 7189 号 公益社団法人京都府宅地建物取引業協会会員 公益社団法人近畿地区不動産公正取引協議会加盟店 [フラットエージェンシー](#)

いともいわれます。地元の火伏の神様「愛宕神社」、或いは鳥居の向いている遙か彼方に建つ伏見稲荷大社への献灯説も考えられているようです。

「五山の送り火」を代表する東山の大火字は、送り火の日でなくとも、今出川通や鴨川沿い、京都御苑など上京区の至る所から拝むことができます。もちろん京



左大文字

都市内の様々なエリアから見えるのですが、上京からは五山の送り火の多くがほぼ万遍なく、特に大文字は近くで点るため、より親近感がわくのでしょうか。「大文字が点つたから、お精霊さんが帰らるわ。」と口々にする様子が眼に浮かびます。幾つかの送り火は大きな寺院や葬送地と隣接していますので、やはり盂蘭盆の後の送り火、亡き人を冥界へ送り届ける道案内の灯火としての役割と、そういう先祖崇拜の気持ちを持つて生きている人達の感謝の思いが強くだめられているという気がします。「送り火」は御先祖や亡くなられた親しい人と、今を生きている人の懸け橋の灯火としての役割を持っているようにも思います。東の間の名残を惜しみ、送り火に手を合わせていらつしやる人を見かけますと、そういう思いがより一層強くなります。単なる山焼きではなく、送り火ですので、人



東山「大文字」

と人とを結ぶという深い意味と、その伝統を百年千年の単位で守り続けて来た長い歴史と関係各位のご尽力を強く感じます。

上京区文化振興会副会長を永年にわたって務められ、当冊子の編集・執筆に尽力されました出雲路敬直氏が、本年四月御逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。

## 柔道圓心道場

〒602-0014  
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210  
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

## 山崎接骨院

〒602-0898  
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647  
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

## 清昌堂 やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

# 新上京の昔ばなし

## 小川と百々橋

かつて小川と呼ぶ川が、上京区の北部を流れていた。もともとは上賀茂辺りの湧水か、今宮神社御旅所みよじま付近から流れてくる二股川が水源だったらしく、明治以降は紫明通辺りで堀川に繋がる京都疏水分流の一部が合流。表・裏両千家の西側、本法寺門前を南下し、報



報恩寺前の石橋

恩寺の門前を経て、上立売通付近で東に曲がり、現在の小川通に並行して民家の軒下すれすれに一条通にまで至り、今度は西に曲がって戻り橋付近で堀川に注いでいた川を指す。

小川通はその河原を整備して、豊臣秀吉が「てんしょう天正の地割じわり」を行なった際に設けられたと伝えられる。

### 春は魚すくい夏蛍とり

「今から五、六十年前でも、寺之内の二二三丁北から向うは見渡すかぎり一面の田畑で、実にのんびりした田園風景だった。その間を流れる小川に、春ともなれば町の子どもたちが三々五々集まってきて、魚をすくう姿をよく見かけたものである」

「夏には必ず螢とりの楽しみが

あった。小川の流路は螢の名所で、夕暮れには京の町から子どももづれの人たちが、螢とりの麦わら掃木ほうきを肩に、螢かごをぶら下げ、川筋を歩き交うていた。小川の流れる兩岸の民家でも、上流に住む人たちは、川に下りて顔も洗えば身体も拭いた。特に夏の川水は冷たく気が持が良かったことだろう。もちろん洗濯にも使われた」

「それよりも多くの民家の井戸は、いずれも小川の地下水の恩恵を受けていたのである。水道が完備せぬ以前、各戸にある井戸は大切な生活の飲料水だった」

「昭和の初め頃から次第に川水の濁りが目立つようになった。今まで田畑であったところに住宅が建ちはじめたのに伴って、生活排水が流れ込んできたためである。西陣織の生産が盛んになるにつれ、小川に面した染物業者の家から流れ込む染料廃水によって、小川の水は、時には赤く時には青く、そして時には異臭を漂わすことさえ

### 歴史文字シリーズ

## 伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

### 和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408(代)

E-mail:info@wako-print.co.jp



京都人さえもが恋するホテル。



〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)  
TEL.075-441-4411 (代) FAX.075-431-2360  
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

あるようになった」

これは故中島泰之助氏（一九〇三〜八六）の昔ばなし（※）である。

### 変わらない地元の愛着

筆者が幼かった頃は、川沿いに多くの染工場が並んで活気がある一方、そこから廃水が流れ落ちて、水が濁っていた。

「鴨川の水で産湯を使うはずが、どう間違ったのか小川の水を産湯に使ったため：（残念ながら京美人にはなれなかった）。京都観光



小川橋の親柱

のバスで、ガイドが笑いを取る定番のセリフだったことを思い出す。その小川も、紫明通の大改修や周辺の下水道整備が進むと排水路としての役割を終え、一九六三（昭和三十八）年前後から埋め立てられて暗渠化が進み、やがて姿を消してしまった。

今出川を下がった小川に面して一八六九（明治二）年に建てられたのが上京第十二番組小学校。後の小川小学校で、学校統合により一九九五（平成七）年に終止符を打つまで一二六年続いた長い歴史を持っていた。

小川は「こかわ」とも「こがわ」とも「おがわ」とも呼ばれ、川としては「こかわ」あるいは「こがわ」。小学校名は発足当初から「おがわ」で貫かれた。川が、学校がなくなっても、地元の人たちの小川への愛着は今も変わらず、同校跡敷地内には「小川」「今出川橋」の親柱が残り、二〇〇五（平成十七）年施



小川と太陽のモニュメント

工の「小川と太陽のモニュメント」に未来への思いを託している。

### 面影伝える本法寺石橋

小川の面影を今日に伝えるのが、本法寺東門前に掛かる石橋だ。暗渠化に伴い小川に掛かる橋も川床も地下に埋もれてしまいう危機に瀕したが、「小川の昔の景観を少しでも後世に残したい」と、本法寺、裏千家と上京区文化振興会会長だった中島氏が連名で京都市に提

京都に生まれて五世紀

www.toraya-group.co.jp

虎 トラヤ

元祖 ぼたん鍋と京料理 畑かど

京・上御霊前烏丸西  
☎〇七五・四四・〇六一〇(代)

出した陳情が受け入れられ、保存されることになった。水こそ流れていないが、石橋を真ん中に、南北十五メートルの石垣、深さ五〇センチほどの川床は、裏千家兜門や茶道会館と合わせて、心安らぐ空間となっている。

### 橋上にはつんと妖女が

本法寺から南へ流れる小川を跨いで寺之内通に掛かっていたのが百々橋。「京都坊目誌」※には「今昔物語に百々の辻子あれば平安京中期の開通ならん。小川の流れに



本法寺の山門



本法寺前の石橋から裏千家を望む

架す。石橋なり。長さ四間一分(七・五メートル)幅二間二分(四メートル)「この橋、幽雅にして野趣あり。街道を往復する者、ここに休憩す」とあり、「都下の名橋なり」と讃えられるが、「今昔物語集」には、「夜更けの橋の上に青衣着物姿の妖女が一人ぼつんと立っていた」「上目づかいににっこりと笑い、ここを通った都人は余りの凄さに肝をつぶして逃げ去った」との、気味悪い話も書かれている。

当時は民家もなく、淋しい場所だったが、やがて足利義満(一三

五八〜一四〇八)が一三八一(永徳元)年、室町今出川付近に室町幕府「花の御所」を造営すると、御所と川を結ぶ周辺に権門の館や寺院が次々と建ち始めた。十五世紀に入ると、小川の東一帯に管領細川勝元(一四三〇〜七三)の家臣たちの屋敷が並び、百々橋を挟んで延びた西方には四職の家柄の山名宗全(一四〇四〜七三)が邸宅を構えた。

### 応仁の乱大合戦の場に

勝元は宗全の養女(山名熙貴の娘)を正室に迎え、二人は姻戚関係になるなど、決して不仲ではな

かったが、將軍足利義政(一四三六〜九〇)の後継者や、管領家の畠山氏や斯波氏の家督争いが絡み、「応仁の乱」が勃発した。  
一四六七(応仁元)年五月、勝元は東軍、宗全は西軍を率いて百々橋を挟んで対峙した。両軍の数は二万とも三万ともいわれ、正確な数は分からないものの、小さな橋の狭い空間に多数の武士が入り乱れる大合戦の場と化した。

戦いは南の一条戻り橋付近まで広がり、付近一帯は武家屋敷、寺院、民家の別なくほとんどが焼失してしまった。古くから京都に住む人々のセリフの「先の戦争で家を焼かれて」は、「応仁の乱」を指しているとも言われるが、さてどうだろうか。



寶鏡寺の門柱には舊百々御所の文字

四十年後の一五〇七(永正四)年、勝元の子政元の後継ぎをめぐり、先に養子になったものの廃嫡させられた澄之



室町校にある百々橋の礎石

と、養嗣子として迎えられた澄元が対立、澄之は刺客香西又六に政元を殺害させ、百々橋で澄元方と戦った。又六はこの時、流れ矢に当たり戦死している。

「百々の辻子」に由来する百々橋の名を有名にしたのが、この二つの戦いだった。

### 今日も残る橋脚と礎石

応仁の乱勃発から五五〇年が経った。

古来、板橋だった百々橋は、「雍州府志」(※3)によると、近世になつ

て石橋に改められた。御影石造りの立派なもので、寺之内通の東西を行き交う人たちに大いに利用されていたが、一九六三年の暗渠化で役割を終えた。

では橋の石材はどうなったのか。地元室町小学校の校庭には破壊を免れた百々橋の橋脚の礎石が残り、傍らに次のように書かれた立て札がある。

「小川は昭和三十八年頃から埋め立てられ、百々橋も解体されました。百々橋の保存を願う地域の方々のご尽力により、百々橋の橋材は、一時、本校に保管されました。その後、橋脚を支える四基の礎石の内、一基を現地に遺構として遺



百々橋の礎石

し、一基は室町小学校で保存、残りの二基は他の橋材とともに洛西ニュータウンの竹林公園に移され、昭和五十五年(一九九〇年)に竹林公園内に復元されました」

この説明通り、百々橋は敷石、欄干、礎石二基などとともに洛西ニュータウン竹林公園内に復元され、礎石の一基は室町小学校に、もう一基は地元の小川通寺之内上ルに、今日なおその姿を留めている。

### すぐ西に尼門跡宝鏡寺

現地遺構のすぐ西に尼門跡の一つで、百々橋に因んで「百々御所」と称される宝鏡寺があり、毎年春

秋に開く人形展は多くの参観者で賑う。境内には吉川観方(一八九四〜一九七九)作の手に宝鏡を持った御所人形をモチーフにした人形塚があり、武者小路実篤(一八八五〜一九七六)の「人形よ 誰がつくりしか 誰

に愛されしか知らねども 愛された事実こそ汝の成仏の誠なれ」の詩が刻まれている。

(福井和雄)

(※1) 「寺之内小川あたり」史料京都の歴史月報二(一九八〇年三月)所載。

(※2) 郷土史家碓井小三郎が京都の沿革、大内裏の概略、上京・下京の各町の歴史、町名の起源、旧跡、社寺について書いた歴史書。一九一五年刊。

(※3) 江戸時代初期に歴史家黒川道祐が記した山城国に関する初の総合的・体系的な書誌。



上杉本洛中洛外図屏風(米沢市蔵)に見える小川(宝鏡寺・百々橋辺り)



活動

「みんな  
花を咲かそう」

上京区総合庁舎の前に並んだプランター。ここに植えられた花々は、区役所に来庁される方や、道行く人々の目を楽しませようと、区民ボランティアの皆さんが毎日水遣りや手入れをしているものです。

初夏の陽射しもまぶしい6月10日、ボランティアの皆さんによって一斉植替え作業が行われました。赤や黄色、ピンクなど、色とりどりのハイビスカスが、元気に咲き誇っています。真夏の太陽にふさわしい華やかな花々を、ぜひご覧になってください。

# 上京文化絵巻第5巻

2月5日、上京区総合庁舎会議室にて、「上京文化絵巻」を開催しました。

第5巻となった今回は、第1部に臨済宗相国寺派教学部長の矢野謙堂氏に『相国寺の歴史について』、第2部は臨済宗相国寺派管長の有馬頼底氏に『上京の文化財』と題して、それぞれお話しいただきました。相国寺の由緒に始まり、今出川という地名や五山の送り火の「大」の字の由来、文化財保護の重要性など、様々なお話を通じて京都の歴史の奥深さに触れることが出来ました。



## 上京区 憲法月間 「映画のつどい」

5月25日、同志社大学寒梅館において、悩みや問題を抱えて生きている大人や子どもたちがさまざまな局面で交差していく様子を描いた映画「きみはいい子」の上映と、「子どもの人権—誰が子どもを守るのか—」と題して同志社大学大島教授による講演が行われました。今回も日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を実施し、講演には手話通訳もつけることで来場された方の誰もが映画を楽しんでいただける機会となり、人権意識を高めるきっかけとしていただきました。

春の「上京茶会」が、5月6日大徳寺塔頭瑞峰院を会場に、表千家による懸釜で開催されました。茶室での本席と、枯山水の名園「独坐庭(どくざてい)」を眺めながら立礼にていただく副席の二席でお茶を味わい、若葉萌える季節の爽やかな空気の中、心休まるひとときを過ごしていただきました。

## 上京茶会



京都市指定

水を大切に... (24時間・年中無休)



水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

# 大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

☎ 0120-350672

消 防 設 備 全 般



**レストラン Blanc Vert**  
ブラン・ヴェール

**【Lunch】**  
◆日替わりランチ(月～土) ¥1,000  
◆ランチセット ..... ¥1,200～

**【Dinner】**  
◆シェフおすすめコース ¥3,300  
◆フレンチスタイルのコース ¥3,300  
◆イタリアンテイストのコース ¥3,300

レストランブラン・ヴェール  
☎ 075 (414) 9881

ルビノ京都堀川

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL 441-5040)  
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

# 鑑定書不要!

ダイヤモンド&宝石各種、絶賛高価買取中!

宝石・貴金属の鑑定は、**FGA(英国宝石学協会)**  
認定資格者が行いますので鑑定書は不要です。

宝飾・時計

ブランドバッグ

美術品・書画・骨董

## YOROZUYA 四条店

ドライブスルー質屋 加藤商店グループ

(株)よろず屋 四条店 『楽天市場』にも出店中

京都市中京区東洞院通四条上ル「大丸京都店」北隣

TEL.075-241-7900

◎営業時間/買取 10:00→19:30  
販売 11:00→19:30

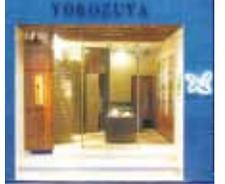
〈本店〉創業70年

京都市上京区烏丸通今出川下ル(地下鉄今出川駅すぐ)

☎ 0120-25-0700

◎営業時間/11:00→19:00(土曜日は18:00迄)  
◎定休日/日・祝 ◎駐車場10台完備

京都 よろず屋 検索 京都 加藤商店 検索



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部

Doshisha University  
**同志社大学**  
http://www.doshisha.ac.jp

お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL:(075)251-3120

## 酢一筋の商い、伝統の滋味。

きょう あしたへ  
京・西陣 孝太郎の酢  
**(有)林孝太郎造酢**

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



創立以来八十年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気にも包まれつつ就学前教育の本流をめぐして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手に入れます。

### 学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://www.kitano.ed.jp/



名物ゆどうふ  
**南禅寺** JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311

http://www.to-fu.co.jp



# 発展、ともに前へ… 洛和会丸太町病院

洛和会ヘルスケアシステム®

京都市中京区七本松丸太町上ル

## 救急対応

24時間365日

内科・外科救急

内科／呼吸器内科／  
消化器内科／心臓内科／  
神経内科／外科／  
整形外科／形成外科／  
皮膚科／泌尿器科／  
耳鼻咽喉科／麻酔科／  
リハビリテーション科／  
内分泌糖尿病内科／救急科

## 耳鼻科救急

月～金 午後7時～  
午後11時

救急・急患には24時間体制で対応しています。

洛和会丸太町病院へのお問い合わせは **TEL 075(801)0351(代)**



*M*  
MALEBRANCHE  
京都 北山

洋菓子

マルブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前  
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440  
9:00AM-8:00PM 年中無休(喫茶10:00AM-8:00PM)  
www.malebranche.co.jp

ご注文専用 **0120-139-399**  
フリーダイヤル 受付時間 9:00～18:00 [日曜日定休]

# 京都御所近くの 運送屋です。

＼こんな運べますか？／

いつでもご相談お待ちしております。

引越サービス

重要書類の安全なリサイクル処分

ダイレクトメール(DM)・メール便配達

旅行カバン・手荷物配達

固定先ルート配送・トラックチャーター 他



株式会社デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上る大文字町 238

TEL 075-211-6541 FAX 075-211-6875

http://www.delivery-service.jp